

【 2024年度 康心会汐見台病院における看護職の負担軽減及び処遇改善計画 】

【目的】				
看護職員の負担を軽減し、効率的で質の高い医療サービスの提供、患者中心の看護が提供できるように、多職種との役割分担を明確にする。				
【目標】				
1.看護職員と看護補助者の業務分担を改善し、協力・連携体制を強化する。 2.関係部門との業務分担を改善し、連携・協働体制を構築する。 3.業務の標準化・効率化による業務量削減による時間外労働の削減				
<取り組み項目>	<方針>	<具体的な取り組み>	達成度	<達成度評価>
1.診療部門	(1) 業務の効率化の推進 ①時間内に業務が終了できるように、オーダーや医師指示など時間設定し、看護師の時間外削減	(1) ①入院患者の定期処方の徹底 (各病棟のきめられた曜日の前々日16時までに処方) ②翌日の点滴オーダー締め切り時間 15時 ③退院指示は前日の15時まで	C	(1) 決められた時間より遅い時間でのオーダーや指示が散見され、指示受けリーダー看護師の残業となっている。 当日退院も多く、書類の準備に追われている。 次年度も継続し、協力を求める必要がある。
2.看護部門	(1) 看護補助者の業務の見直し ①日常生活援助の業務拡大 ②事務的作業の看護補助者への移行 (2) 看護補助者の業務を安全に行う教育・研修の実施	(1) ①看護師の指示のもと、看護補助者の業務を明確化 ②看護補助者の業務内容と業務範囲の明確化 ③診療に係る周辺事務業務の明文化 (1) 看護補助者研修の実施 (技術研修、感染対策、医療安全、看護補助者の業務)	B	(1) 看護補助者の任務について見直し、変更。 看護補助者の業務内容と業務範囲について表に示し、誰が見てもわかるように作成した。 (2) 看護補助者の研修計画を作成し、研修に参加を促し、参加後のレポートなどで結果をフォローした。
3.薬剤部門	(1) 薬剤師の専門性を活かした業務分担	(1) ①持参薬の鑑別 ②病棟患者の服薬指導(退院処方の服薬指導も含む) ③病棟患者の処方薬の薬剤カードへのセット ④手術や検査などの中止薬の確認	C	(1) 持参薬の鑑別は基本的に実施できているが、週末や休日の鑑別は看護師が実施している現状がある。 必要な薬剤の飲み忘れ、処方忘れ等のインシデントもあり次年度以降継続課題。
4.リハビリ部門	(1) リハビリスタッフの専門性を活かした業務分担	(1) ①リハビリ実施時は、患者移送を行う。 ②患者の入浴などの予定を看護師と協働し、患者中心で行動 ③リハビリカンファレンスの実施(各病棟にて日時設定)	B	(1) リハビリ時の患者移送は基本的にリハビリスタッフが実施 看護師とリハビリスタッフと患者情報を共有することができているため、次年度も継続。
5.栄養部門	(1) 栄養科での可能な業務についての整理、実施	(1) ①配茶を栄養科で準備し、病棟へ運搬	A	(1) 栄養科で実施。看護補助者業務の負担軽減となった
6.ME部門	(1) MEスタッフの専門性を活かした業務分担	(1) ①医療機器の一括管理の継続 ②毎日の医療機器の点検	C	(1) 輸液ポンプ、シリンジポンプなど病棟での医療機器の管理は定期的に実施され、管理を行っている。 手術室での医療機器管理は看護師が実施しているため次年度の課題とする。
7.管理部門	(1) 働きやすい職場環境の構築のため、勤務時間への希望に柔軟に対応する。 (2) 夜勤負担軽減	(1) ①育児・介護等の理由での時短勤務希望者に対して個々の事情に応じた勤務時間を提案し、離職防止に努める ②妊娠・育児などの理由で、必要時他部署への配置転換を検討。 (2) ①必要スタッフの夜勤免除、夜勤職員の採用 ②連続夜勤は2回までと上限を設定 ③11時間以上の勤務インターバルの確保 ④夜勤後の休日の確保、夜勤中の休憩時間の確保	C	(1) 妊娠・育児・介護などの看護師に関しては、その都度面談を実施し、本人の希望に合わせた配置部署を検討した。 また、勤務時間も希望に合わせ、短時間労働でも可能とした。 育児中のスタッフや介護の理由など面談を通じて必要と判断した場合は、夜勤免除とした。 夜勤専従の採用など夜勤負担軽減に向けて取り組むことはできた。次年度も継続して実施する。

達成度の評価 A:達成された B:部分的に達成 C:継続的に取り組み中 D:未達成